



金沢大学大学院人間社会環境研究科長
柴田正良

人間社会環境研究科とは？

INDEX

- 1 人間社会環境研究科とは？
- 2 博士前期課程 研究科の構成
- 4 博士前期課程 各専攻・コース紹介
- 6 博士前期課程 公共経営政策専攻
- 8 博士前期課程 教育指導体制
- 10 博士後期課程 研究科の構成
- 12 博士後期課程 各専攻・コース紹介
- 14 博士後期課程 教育指導体制
- 16 入学試験に関する問い合わせ先

新しい革袋に新しい酒を入れる

古い革袋に新しい酒を入れる、という喩えはいろいろに解釈されるようですが、私たちは、本当に新しい酒だからこそ新しい革袋が必要だと考えました。何が新しい酒なのでしょう。それは、これまでの伝統的な専門研究をもっと徹底させて初めて見えてくる〈人間・文化・社会という総合的な問題領域〉に関する学際的研究です。これは、これまでの文学・法学・経済学の領域を含みながらも、そのような切り口では見えてこない現代の最新の問題に対処しようとする新たな知の営みです。

それでは、何が新しい革袋なのでしょう。私たちの研究科は平成18年4月に、2つの大きな改革を行いました。一つは、これまでの3つの修士課程研究科(文学研究科・法学研究科・経済学研究科)を統合したことです。二つ目は、それらを博士前期課程とし、それらと従来の博士後期課程である社会環境科学研究科を統合したことです。この2つの改革により、私たちの研究科は、博士前期課程(定員55名)と博士後期課程(定員12名)からなる区分制大学院の人間社会環境研究科になりました。

私たちは、人間社会環境研究科という革袋に、学際的・総合的な人文・社会科学の酒を蓄えようというのです。

新しきを温めて故きを知る

私たちを取り巻く現在の社会環境は、古き良き学問の優雅なスタイルをもはや許してくれないように見えますが、皮肉なことに、切迫した現代的な課題の解決の中にこそ、故き学問の方法と知恵が生かされるのだということが分かります。一つ例をあげてみましょう。いまや人類的課題となったものの一つに地球環境問題があります。しかし、この問題は、「地球にやさしく」などといったキャッチフレーズを口でくり返すだけでは、少しも解決しません。一方では発展途上国の命運のかかった南北問題があり、他方では、そもそも人類にとって進歩発展とは何かという哲学的な問題があり、さらには現代における国家間の権利の平等をいかに実現するかという政治学的な問題などがあります。これらは、「地球環境」という問題領域を漠然と研究しようとしてもうまく解決できません。このような場面でこそ、これまでの文学・経済学・法学などの伝統的な研究の深化が生きるのです。

しかし、もちろんそれで終わりではなく、そこから先のこと、つまり、このようにして知った故き知識と知恵を再び新たな問題現象の解決に向けて改変し応用する、そこに私たちの研究科の存在理由(raison d'être)があると言うことができます。

今の学者も己の為にす

昔の学者は自分の修養のために学問をしたが、今の学者は世間の名声のためにしか学問をしない、という嘆きはそれこそ昔からあったようです。しかし、みなさんは、人生の最後の目標が何であれ、ここでは堂々と自らの学位のために勉強をしてください。

私たちの研究科は区分制の5年一貫の大学院になりましたが、もちろん、博士前期課程(修士課程)で修了することもできます。博士前期課程では、みなさんのニーズに応じて、人間文化専攻、社会システム専攻、公共経営政策専攻の3つの専攻を創設し、博士後期課程では人間社会環境学専攻を設置しました。それらのユニークな内容と新しい試みに関しては、この「研究科案内」をよくお読みください。必ずや、みなさんの求めるものが見つかるでしょう。

勉学の苦を厭わぬ者こそが…